

 **PAZLINE** 株式会社
設立30周年記念誌

30th
Anniversary

設立30周年記念誌

PAZLINE
株式会社

設立30周年記念誌

 **PAZLINE** 株式会社
設立30周年記念誌

30th
Anniversary

PAZLINE
株式会社



PAZLINE 株式会社

設立30周年記念誌

30th Anniversary

県民の
暮らしに
奉仕する



30th Anniversary

設立30周年記念誌

目次

4	ごあいさつ	30	新社名の由来	50	各部署紹介・営業部
5	PAZLINE株式会社 新社屋	31	ロゴマークの由来	51	商品管理部
7	祝辞	32	命名者インタビュー	52	総務部(総務課・業務課)
10	写真集	34	よもやま話	54	会社概要
16	社史(沿革)	36	株式会社琉信管材商事の1年目～19年目	55	組織図
18	設立30周年に寄せて役員・社員コメント	38	琉株式会社信管材商事を回想	56	お取引先企業・取扱商品
22	歴代社長紹介	42	株式会社琉信管材商事の20年目～29年目	57	経営理念・社訓
24	歴代役員任期一覧	44	若手社員の本音に迫る一問一答	58	謝辞
26	座談会 各部長が語るこれからのPAZLINE	46	編集委員座談会	60	編集あとがき



ごあいさつ



時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

おかげさまでPAZLINE株式会社は、2018年4月をもちまして、設立30年を迎えました。設立以来順調に発展することができましたのは、ひとえに皆様方の温かいご支援とご指導の賜物と、心より厚く感謝申し上げます。

弊社は、沖縄の産業と暮らしを支える事業として1989年4月に株式会社琉信商事が誕生して以来、沖縄の地場を下支える企業という自負のもと成長して参りました。

また2013年12月には、福山商事株式会社の子会社となり、株式会社福山ホールディングスグループとなりました。

2021年1月には新社名としてPAZLINE株式会社に商号を変更いたしました。気持ちを新たにこれからも沖縄の産業振興に貢献し、地域、社会、人に信頼される企業として未来を目指します。

つきましては、この30周年の一区切りとして30周年記念誌を発行いたしました。これまでの来し方を振り返り、これからの礎にしたいと思います。今後とも、益々株式会社福山ホールディングスを中心としたグループ企業及び弊社が発展していきますよう、努めてまいりたい所存でございますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

最後になりますが、皆様方のご健勝とご発展を祈念申し上げ、あいさつとさせていただきます。

代表取締役 **福地 正行**

PAZLINE株式会社 新社屋



新社屋 地鎮祭・竣工式

社員一同、新社屋の完成まで、建設の節目節目に参加しました。2020年5月25日に地鎮祭にて工事中の安全祈願が行われ、2021年1月20日に竣工式にて建築物の末永い繁栄祈願が行われました。



地鎮祭 (2020年5月25日)



竣工式 (2021年1月20日)

PAZLINE株式会社 新社屋



祝辞



浦添市長
松本 哲治 様

PAZLINE株式会社の設立30周年記念誌が発行されるにあたり、お祝いのごあいさつを申し上げます。

はじめに、PAZLINE株式会社 代表取締役福地正行様をはじめ、社員の皆様並びに関係者の皆様に心からお祝い申し上げます。

PAZLINE株式会社は、「県民の暮らしに奉仕する」を信念に、管工機材の商社として、住宅設備や生活の基盤となるインフラ設備など、より良い環境を整備する業務に日々取り組まれ、この度30周年という大きな節目を迎えられました。

長年にわたる献身的な活動と輝かしいご功績に心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げる次第でございます。

さて、本市の近年の情勢を見ると、西海岸道路の開通、モノレールの延伸等もあり、目まぐるしい変貌を遂げております。しかしながら、県経済を取り巻く環境は、新型コロナウイルスの影響も相まって、景気は以前にも増して鈍化し、近い将来ですら見通すことが難しい状況となっております。

このような局面において、一つの企業が輝き続けることは並大抵のことではなく、皆様の業界におかれましても、常に技術の高度化が求められる中、試行錯誤を繰り返しながら日々努力を重ねているものと推察いたします。社会インフラ整備という大変重大な使命を担う御社ではございますが、30周年を記念して新社屋も完成され、社員一同、気持ちも新たに歩み始めていることと思われましますので、これからも本県の発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

本市といたしましても、これからも市民が希望で胸が高鳴る魅力的なまちづくりに向け、様々な施策に積極的に取り組んでまいります。

結びに、御社がこれからも築き上げてこられた信頼と実績を生かし、地域や県民の暮らしに寄り添う企業として、社員一丸となってさらなる飛躍を遂げられんことを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞



JFE商事鋼管管材株式会社
 代表取締役社長 **大橋 弘昌** 様

この度はPAZLINE株式会社が設立30周年という節目を迎えられましたこと、誠にありがとうございます。

歴代の社長をはじめ、社員の皆様のためご努力の賜物と心より喜び申し上げます。

御社の歩みを振り返りますと、私どもJFE商事鋼管管材株式会社の前身である「富士商事沖繩出張所」がなかなか軌道に乗らず経営が苦しくなった時に「株式会社琉信」に人や商権を引き受けていただいたのがスタートと聞いております。

そして皆様の長年に渡るご尽力と経営手腕により、今のPAZLINE株式会社へと大きく逞しく発展されました。

弊社にとりましても、御社のお陰で沖繩におけるビジネスを繋ぎ止めることが出来ました。

改めて敬意と感謝の意を表したいと思えます。

御社とお付き合いさせていただき、常に感じることは、社長をはじめ、社員の皆様がチームワーク良く、また大変明るく優しいことです。

弊社の歴代担当者に対しましても、いつも家族のように接していただき、担当者みんなが御社のファンになっております。

そのようなお取引先を包み込むような、情感溢れる社風が今の沖繩での揺るぎない地位を築かれてきた原動力であるのだとしみじみ感じている次第です。

これからカーボンニュートラルの時代になり、また経済構造や製鉄会社のあり方も大きく変化する時代に入りますが、御社におかれましては「PAZLINE」の社名の通り、パイプ資材の全てにおいて、お客様にあらゆるソリューションを提供する企業として益々その存在感を発揮されるものと信じております。

弊社並びにJFEグループといたしましても、微力ながら精一杯ご協力させていただきたいと存じますので、今後とも末永くお付き合いのほど何卒よろしくお願い申し上げます。

最後にPAZLINE株式会社の一層のご発展と皆様方のご健勝、ご活躍を祈念致しましてお祝いのメッセージとさせていただきます。

祝辞



株式会社福山ホールディングス
 代表取締役社長 **福山 保** 様

この度は設立30周年記念誌の発刊誠にありがとうございます。

御社と福山商事株式会社とは永年同業者としてお付き合いさせて頂いておりましたが、平成25年ご縁があり福山商事株式会社の子会社となりました。

当時の御社砂川康章常務を社長に昇格させ、福山商事株式会社からは福地正行専務を非常勤取締役、営業部長の上間正信氏を御社の常務取締役に就任させ新たな体制で運営しておりました。

順調に経営も成り立っていた矢先、砂川社長が急逝したことを受け、福地正行氏を社長に就任させ現在に至っております。

福地社長を中心に社内のコミュニケーションを大事にし、社員のモチベーションも高まっていると思います。また、経営計画も全員参加で策定され計画通り推進されています。

30周年を迎えるにあたり、記念事業として、福地社長の強い思いで、新たな社名への変更・新社屋建設・及び記念誌の発行等を掲げそれに取り組みされておりました。

社名変更にあたっては社員からの公募により自社が扱っている商材のイメージで【PAZLINE株式会社】に決定されました。4階建ての立派な新社屋も完成し、働きやすく業務がより推進できる環境が整っており、更なる躍進が期待されます。

設立30周年を通過点にこれからの10年・20年と積み重ね100年企業に向けて、人と人との絆を大事に大きく羽ばたくことを祈念し祝辞とします。

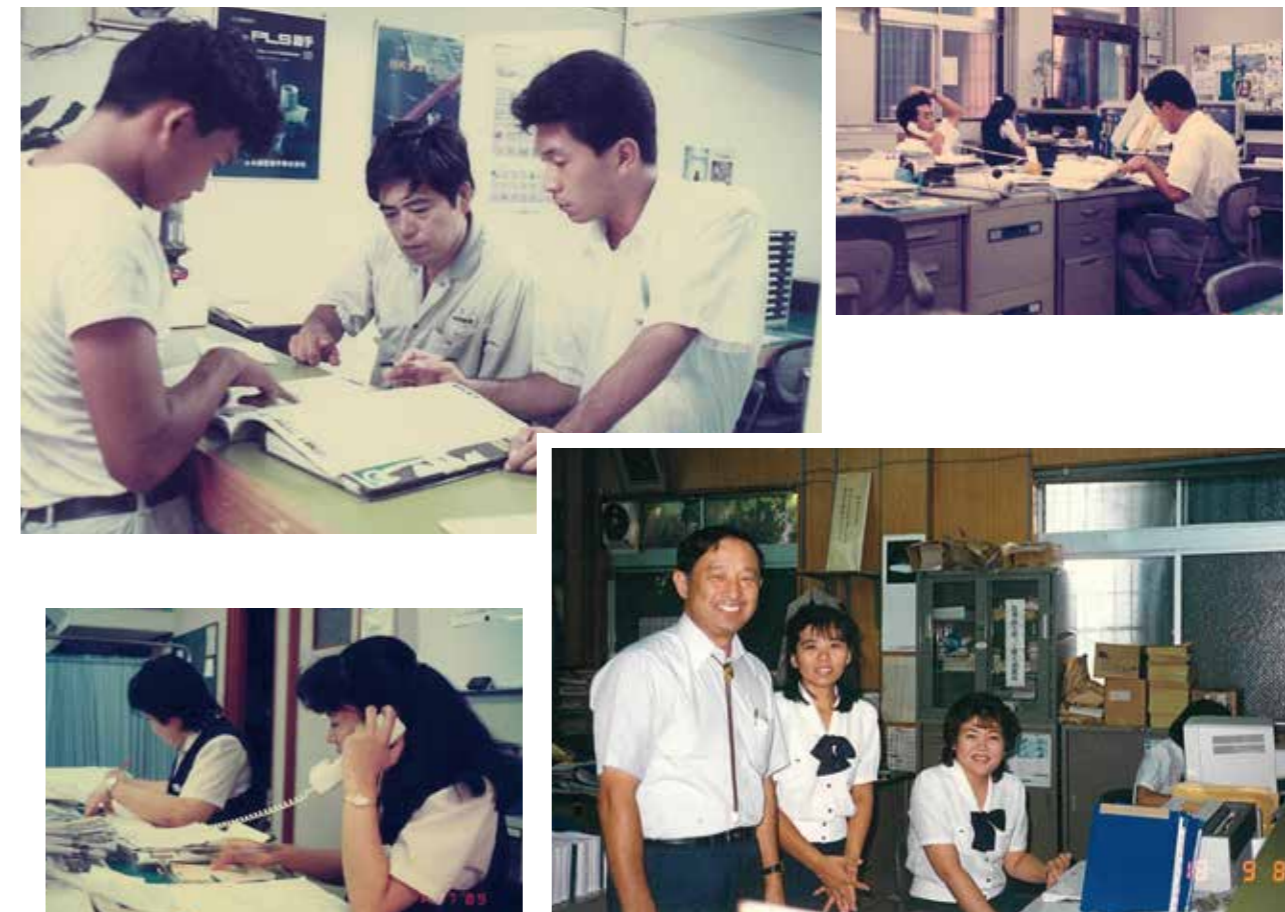
創立祝賀会(平成元年5月)



創業当時の本社(平成元年頃)



創業当時の職場風景



社内球技大会



社内マラソン大会(平成8年)



旧社屋職場風景



旧倉庫



初荷式(平成29年)



ビーチパーティー(平成27年)



ビーチパーティー(平成28年) ビーチパーティー(平成29年)



ビーチパーティー(令和元年)



誕生日祝い



琉管ゴルフコンペ(平成27年)



設立25周年祝賀会(平成25年5月)



歓送迎会



セミナー



台湾旅行(平成30年9月)



忘年会



株式会社琉信商事からPAZLINE株式会社へ

社史・おもな出来事 1989▶2021



1989年 (平成元年)

4月1日 株式会社琉信商事設立。
株式会社琉信の商事部を譲り受け、管工機材及び設備機材の卸小売業として営業展開。

主な出来事

- 昭和天皇崩御、昭和から平成に
- 消費税3%スタート
- 首里城再建工事本格化
- 美空ひばり、手塚治虫が死去

1993年 (平成5年)

公共事業による売上増。

主な出来事

- 皇太子・雅子さま御結婚
- Jリーグ開幕
- レインボーブリッジ開通
- 日本初の世界遺産登録 (鹿児島県「屋久島」、青森・秋田両県「白神山地」、奈良県「法隆寺地域の仏教建造物」、兵庫県「姫路城」)

1998年 (平成10年)

設立10周年。公共工事用資材、分譲住宅用資材の受注が大きくなる。

主な出来事

- 長野冬季オリンピック開幕
- FIFAワールドカップフランス大会に日本が初出場
- 明石海峡大橋が開通
- 黒澤明が死去

2008年 (平成20年)

設立20周年。大手建設業者、大手ゼネコンへの直売を受け、宿泊施設・大型マンション建設などの民間工事が増加。

主な出来事

- 北京オリンピック開幕
- 国内最大級となる徳山ダムが完成
- 小林誠・益川敏英・南部陽一郎の3名がノーベル物理学賞受賞
- 下村脩がノーベル化学賞

2021年 (令和3年)

PAZLINE株式会社へ商号変更。1月に新社屋完成。

主な出来事

- 新型コロナウイルスワクチン接種
- 東京オリンピック・パラリンピック開催
- 松山英樹がマスターズ・トーナメント優勝
- 熱海で大規模な土石流



1990年 (平成2年)

管工機材及び設備機材の拡販に積極的な営業活動を展開。

主な出来事

- 礼宮文仁親王・紀子さま御結婚
- 秋山豊寛さん日本人初の宇宙飛行
- バブル経済崩壊
- 第1回大学入試センター試験実施

1997年 (平成9年)

株式会社琉信管材商事へ商号変更。

主な出来事

- 消費税率を5%に引き上げ
- サッカー日本代表初のワールドカップ出場を決める
- 山一證券破綻
- 香港が英国から中国に返還

その他の主な出来事

1991年 (平成3年)

- 千代の富士引退
- 雲仙普賢岳で大規模噴火発生
- 世界初のWorld Wide Webサイトが開発

1995年 (平成7年)

- 沖縄「平和の礎」の除幕式
- 阪神・淡路大震災
- 地下鉄サリン事件

2002年 (平成14年)

- 沖縄美ら海水族館が開園
- 小柴昌俊がノーベル物理学賞受賞
- 田中耕一がノーベル化学賞受賞

2003年 (平成15年)

- 大卒就職内定率60% 氷河期続く
- 小惑星探査機「はやぶさ」打ち上げ
- 沖縄都市モノレールが開通

2007年 (平成19年)

- 郵政事業 民営化
- 新潟県中越沖地震が発生
- Googleが携帯電話専用検索エンジン提供開始

2011年 (平成23年)

- 東日本大震災
- 地上デジタル放送に完全移行
- FIFA女子ワールドカップドイツ大会で日本代表が初優勝

2014年 (平成26年)

- 消費税が5%から8%に増税
- 人口減少 過去最大に
- 富岡製糸場が世界文化遺産に登録

2019年 (平成31年・令和元年)

- 新元号「令和」出典は万葉集 官房長官発表
- 消費税が8%から10%に増税
- 首里城正殿、北殿、南殿などが焼失

2013年 (平成25年)

福山商事株式会社の子会社となる。

主な出来事

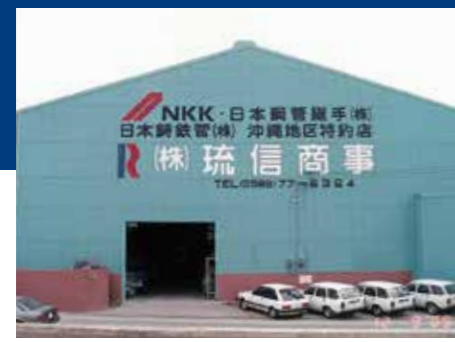
- 富士山が世界文化遺産に登録される
- 長嶋茂雄と松井秀喜が国民栄誉賞
- 新石垣空港が開港
- 出雲大社と伊勢神宮が遷宮

2018年 (平成30年)

設立30周年。株式会社福山ホールディングスグループ企業となる。

主な出来事

- 西日本豪雨
- 築地市場が豊洲市場へ移転
- 安室奈美恵が引退
- 大坂なおみが全米オープン女子シングルス優勝



設立30周年に寄せて社員一同の気持ち 役員・社員コメント

常務取締役 西 正和 (2018年6月入社)



私が転職して驚いたのは、社員が就業時間内に仕事を終わらせるといふ心がけが、徹底していることでした。もちろん繁忙期は、多少の時間外労働をせざるを得ない部署はありますが、ほぼ17時50分までにはタイムカードを打刻して会社を後にしています。みんな仕事をがんばりながらプライベートも充実させて、うまく両立させるため努力していることに感心しました。

30周年という節目を迎え、会社は今後も大きく発展して行きますが、みんなが豊かな生活を実現できますよう、一緒に取り組んで参ります。

営業部 統括部長
上間 千広 (1996年5月入社)



念願であった新社屋も完成し、1月には社名も変わり、新たなスタートを切りました。

今まで築き上げた信頼を守りつつ、より一層励んでまいりたいと思います。

営業部部長
宇栄原 忠義 (2003年5月入社)



30周年という長い歴史の中で、少しでも携わる事が出来、新社屋や社名変更という大きな節目にも関わることもでき、大変光栄に思います。諸先輩方が築いてきた功績に敬意と感謝の気持ちを抱き、皆様のご信頼にお応え出来る様、精一杯の努力をして尽力して行きたいと思っております。

営業部課長
崎山 英郁 (1999年7月入社)



私が入社したのは20年前ですが、その間に平成から令和に元号が変わり、事務所の建替、そして社名変更といった数々の変化がありました。これまでの先輩方々より受け継いできた伝統を大事にしながら、刻々と変化する社会に対応し、よりお客様のニーズに答えられる会社となるよう自身にできることに力を尽くします。

営業部係長
吉田 錠二 (2008年4月入社)



社名もPAZLINE株式会社へと変わり、新社屋も建てる事が出来た事は、30年という歴史において、諸先輩方のご尽力の賜物だと思います。弊社に関わるすべての方々の御期待・信頼に応えられるよう、全力で精進していきます！

営業部
親富祖 竜二 (2010年4月入社)



令和3年1月より社名も変わり、心機一転会社の発展のために貢献していきたいと思っております。

営業部
高良 昌伍 (2011年4月入社)



社名も変わって、新しくまた頑張ろうという気持ちが強くなりました。仕事もプライベートも、前進していきたいと思っております。

営業部
伊良皆 亘 (2011年4月入社)



新社屋も建ち、社名も変わったので、これからも貢献できるよう、自覚を持って仕事に励んでいきたいです。

営業部
喜屋武 一成 (2019年1月入社)



私は、人とのつながりによりこの会社へ入社し、30周年、社名変更という大きな節目に居る事を幸せに感じております。

これからも人とのつながりを大事にし、PAZLINE株式会社がいつまでも存続していけるよう、会社と共に成長していきたいです。

営業部
金城 旭貞 (2021年5月入社)



入社して間もないですが、新社屋、新しい社名といった会社の節目に関わる事ができてとても喜ばしく思います。

より一層、気を引き締めて頑張って行きます。

営業部
平松 一秀 (1989年4月入社)



設立30周年を迎えて、新社屋の落成、併せて社名変更と心機一転し、100年企業を目標に頑張りたいと思います。

商品管理部部長
平良 成史 (1990年6月入社)



30周年・新社屋・商号変更と大きな節目に立ち会えた事に感謝したいと思います。今回30周年にあたり、会社の歴史を振り返るとその変化に驚き懐かしく思います。

これから先へと続く会社の未来も楽しみであり、会社と共に自身も成長ができる様に頑張っていこうと思っております。

商品管理部課長
久高 学 (2001年4月入社)



PAZLINE株式会社と社名が変わって心機一転、仕事に励むことが出来ています。

今後も40周年、50周年目指して社員一同頑張っていきたいと思います。

商品管理部係長
大城 健 (2004年7月入社)



新社屋が建ち、社名も新しくなり、みんなが働きやすい会社になるといいですね。

商品管理部
平田 成二 (2010年4月入社)

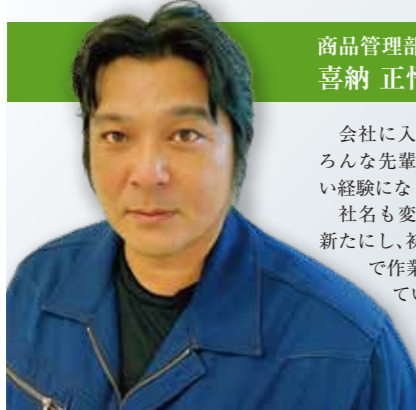


新社屋も完成し、名前も変わって新鮮な気持ちです。

心機一転、仕事に励みたいです。

設立30周年に寄せて社員一同の気持ち 役員・社員コメント

商品管理部
喜納 正悟 (2011年4月入社)




会社に入社して10年がたち、いろんな先輩方と出会い、とてもいい経験になりました。
社名も変わったので、気持ちを新たにし、初心を忘れず、安全第一で作業をして、会社に貢献していこうと思います。

商品管理部
徳永 貴史 (2017年8月入社)



私が入社して4年が経ちますが、新社屋と新社名、また設立から30周年など、色々な節目の中に居ることを嬉しく思います。
これからを機に一層気を引き締めて、また一から頑張ります。

商品管理部
兼島 直也 (2018年7月入社)



私は入社して3年がたちましたが、自分が生まれる前からこの場所でたくさんの先輩方が働き、今日まで繋いできたと思うと、とても感慨深いです。
私も40周年、50周年と繋いでいけるよう会社に貢献していきます！

商品管理部
佐久田 昌也 (2020年2月入社)



社名も社屋も新しくなり、ますます身が引き締まる思いです。
これからもより一層会社の皆さんと協力しながら共に成長していきたいです。

商品管理部
大城 一成 (2021年6月入社)



入社してまもないですが、30周年という節目に立ち会い、これから40周年、50周年と迎えられるよう、社内のみなさんと一緒に貢献したいと思いました。

商品管理部
新垣 克己 (2021年10月入社)




新生PAZLINE株式会社の一員として、入社したばかりですが、貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。

商品管理部
伊佐 隆真 (2021年12月入社)



これからも誠心誠意頑張りに貢献していこうと思います。よろしくお願ひします。

総務部 業務課
久場 康永 (2021年4月入社)



私はグループ会社より令和3年に転籍入社で、心機一転PAZLINE株式会社の発展の為に誠心誠意全力を尽くして頑張っていきたいと思っています。管材業界ナンバー1を目指して社員一同様々なことにチャレンジしていきます！

取締役総務部部长 玉城 昌恵 (2006年4月入社)



30周年、新社屋、新社名、新生PAZLINE株式会社の輝かしい未来へ期待し、気持ちも新たに社業発展に貢献したいと思っています。
未来永劫！！50年…100年と続く様がんばりましょう！！

総務部 総務課係長
吉田 みゆき (2005年10月入社)



入社して15年が経ち、これまでにたくさんの方と出会い、先輩方が築き上げられた会社の節目に社員の一人である事を誇に思います。
また、仕事と育児の両立が出来るのは上司や職場の理解と協力があるおかげです。大変感謝しております。新社名「PAZLINE株式会社」で心機一転、会社に貢献出来るように努力してまいります。

総務部 総務課
嘉数 七瀬 (2021年4月入社)



入社して数ヶ月ですが、とても働きやすく周りの方達もとても優しくしてくれるので、沢山学ぶことが出来ています。
何も分からずのスタートでしたが、自分自身で決めた「働く」決意を忘れず、全力で頑張っていきたいです。
自分自身も成長して、仕事での技術や知識を沢山身に付けて、みなさんをサポート出来るようにしていきたいです。

総務部 業務課係長
上里 幸司 (2019年1月入社)



30周年という記念に、また新社屋の設立という2つの記念すべき出来事に立ち会えてうれしく思います。
今後も、会社の業績とともに自分自身も発展していける様、取り組んで行こうと思います。

総務部 業務課
佐孝 海樹 (1997年10月入社)



新社屋も建ち、社名も新しくなり今後の未来に担って、気持ちも心機一転、周囲のみなさんと一緒に前進していきたいです。

総務部 業務課
親富祖 千紗 (2001年4月入社)



新社名、新社屋設立、この記念すべき節目に立ち会うことができたことを、とても嬉しく誇りに思います。
諸先輩方が築き上げてきた信頼と実績を、次世代へと繋いでいけるよう、気持ち新たにPAZLINE株式会社の今後の発展に貢献していきたいと思っています。

総務部 業務課
向里 菜月 (2017年3月入社)



新社名・新社屋のタイミングに携わり、貴重な体験をさせていただきました。
社内の雰囲気も良く、日々刺激があり、成長させて頂いています。
三位一体になり、互いに切磋琢磨しながら、より良い会社にしていきます。

総務部 業務課
岸本 玲亜 (2021年1月入社)



私は、今年入社したばかりでまだまだ未熟ですが、これから40周年、50周年も社員のみなさん全員で祝えていたらいいなと思っています。
仕事もプライベートも大切にしながら、会社を飛躍させるため、3つの部署全体が協力して、頑張っていきたいです。

30th

歴代社長紹介

歴代社長紹介



初代社長 **金城 和夫**
1期(1989年)～11期(1999年)



第3代社長 **前原 信治**
14期(2002年)～16期(2004年)



第6代社長 **比嘉 幹弘**
20期(2008年)～25期(2013年)



第7代社長 **新城 満**
25期(2013年)

第2代社長 **仲村 繁**
12期(2000年)～13期(2001年)



第4代社長 **澤岷 秀雄**
17期(2005年)



第5代社長 **山田 親彰**
18期(2006年)～19期(2007年)



第8代社長 **砂川 康章**
25期(2013年)～28期(2016年)



第9代社長 **福地 正行**
29期(2017年)～



歴代役員任期一覽

■ 会長
 ■ 社長
 ■ 専務
 ■ 常務
 ■ 取締役
 ■ 取締役相談役

	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	
	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期	13期	14期	15期	16期	17期	18期	19期	20期	21期	22期	23期	24期	25期	26期	27期	28期	29期	30期	31期	32期		
国吉 正兼	会長				取締役																													
金城 和夫	社長																																	
上間 長勇	常務								専務			取締役相談役																						
小渡 信勝	取締役																																	
神山 峻於	取締役																																	
嘉数 邦夫	取締役														取締役																			
金城 義男				取締役																														
武田 久					会長																													
阿良 光雄							取締役																											
仲村 繁														社長																				
普天間 栄進																																		
久高 将克																																		
安次嶺 勝																																		
東江 勉																																		
岡村 芳邦																																		
前原 信治																																		
比嘉 博																																		
澤舩 秀雄																																		
金城 俊晴																																		
山田 親彰																																		
宮城 英子																																		
真喜志 清																																		
武富 秀世																																		
比嘉 幹弘																																		
砂川 康章																																		
新城 満																																		
徳元 一也																																		
兼村 明																																		
永山 孝																																		
島袋 淳																																		
上間 正信																																		
福地 正行																																		
福山 恵子																																		
西 正和																																		
玉城 昌恵																																		
福山 弘隆																																		

座談会

各部長が語る これからのPAZLINE

先人たちから受け継ぐPAZLINEの強み、後世に託したいPAZLINEの未来。
各部署の部長が入社当時から振り返り、思い出話に花を咲かせながら会社、仕事、仲間に対する熱い想いを語り合いました。



座談会メンバー

宇栄原 忠義
営業部／部長
2003年入社

玉城 昌恵
総務部／取締役部長
2006年入社

平良 成史
商品管理部／部長
1990年入社

上間 千広
営業部／統括部長
1996年入社



も、この15年で大きく変わりましたよ。今はまったく残業しませんし、休日出勤なんて考えられないくらいですね。

平良部長 働き方はかなり変わりましたよね。週休二日制を導入したのも、この業界では先駆けだったんじゃないかなと思います。

上間部長 完全週休二日制に関しては、営業部では反対の声もありました。お客様の現場が動いているから交代制でも出勤した方がいいんじゃないか、という意見を尊重して、私は最後まで役員と話し合っただけで抵抗してはいたんですが、いざ週休二日制になったら現場を気にしていた人たちが率先して休日を満喫していましたよ(笑)。結局すぐに定着して、問題なかったですね。

平良部長 当社が導入したあと同業者も次々に週休二日制になっていったと思います。当社では週休二日制が定着したら、次は有給休暇をちゃんと消化するようになりました。繁忙期が終わったらみんな積極的に有休を取っていますよね。

玉城部長 もっともな理由がないと有休を取りにくかった時代から、理由はなくとも休める時に休みましょ、という風潮が変わりました。システムを導入し効率化を図ってからは、残業もなく有休、産休育休もちゃんと取れています。働き方改革が注目されるより以前から業務改善に取り組み、今はとても働きやすい会社になったと思います。

上間部長 2013年に社内の商品管理システムを変更してから飛躍的に変わりましたね。事務処理の時間が削減され、残業がなくなりました。私がこの会社にいる中でも一番大きな変化だったと思います。

平良部長 2013年以前もシステムは導入していましたが、これも業界の中では先駆けていたと思います。

玉城部長 業界の中で時代を先取りできているのは当社の強みですね。株式会社琉信やりゅうぎんグループ、福山グループなど常に大手の傘下だったからできたこともたくさんあったと思います。その信用の下で諸先輩方が築き上げた実績やメーカーとの絆が当社の一番大きな財産ですね。

平良部長 強みと言えば、豊富な在庫とデリバリーもそうですね。減らしたとはいえ8千万円から1億2千万円分の在庫を保管しています。今の時代、在庫はあまり持たない傾向ですから、当社の在庫とデリバリーは同業他社には真似できないサービスです。商品管理部が在庫管理と配送を担当し、現場の急を要する事態にも即対応できるようにしています。

上間部長 私が入社したのは20年以上前ですが、残業も休日出勤も当たり前でしたね。当時所属していた商品管理部は、物量もかなり多かったので19時からでも配送に出ていました。毎日残業で忙しい日々がずっと続いていました。

平良部長 ひと昔前は物流システムが高度ではなかったので、商品到着や納期が変更になることも多かったですね。工事が始まって商品がない場合は、一度納めた現場から借りて納品していましたよ。イレギュラーな対応は通常業務後に行うので、残業の日々でしたね。

上間部長 棚卸はもっと大変でしたよ。3万点以上ある在庫を皆で一つひとつ数えて。棚卸実地日の1カ月前から始めて当日の深夜12時まで数えていました。誤差も1千万円台はありましたね。

玉城部長 今はパソコンのシステムで管理しているので、在庫も残業もだいぶ減りましたよね。

上間部長 在庫は必要な商品を必要な分だけ置くようにして、8千万円前後に抑えています。

宇栄原部長 それでも取り扱い商品は3万点以上あるので、入社時は商品を覚えるのが大変でした。今の在庫管理システムが変わって、色々な業務がかなり効率化されています。

玉城部長 繁忙期や決算期は総務部も毎日残業して休日出勤もありましたね。下期から6月くらいまで休みなしというのが、私が入社した15年前までは当たり前に行われていてびっくりしました。で



宇栄原部長 働きやすくても強みもたくさんありますが、会社の体制は割と激動ですよ(笑)

上間部長 そうですね。特に福山グループの傘下になると決まったときは、メーカーもみんな不安になっていましたね。これまで通りに取引が続けられるのかと。会社の体制が変わるときは私たちも不安ですが、同じように取引先やお客様も不安になるので、こちらの動揺は見せないようにしていました。これまでと変わらない安定した取引とコミュニケーションを取り、何年かけてでも不安を払拭し信頼を取り戻さなければならぬ、という思いでしたよ。

宇栄原部長 体制が変わったときこそ、なるべく今までと同じ通りに。株主が変わっただけで私たちは何も変わりません。と、そういう姿勢で向き合ってきました。そうすることでまた信頼が回復して。

上間部長 会社の体制が変わる、私たちも取引先も不安になる、というのは割と何回かありましたね。でも、我々はいつでもお客様を第一に考え、メーカーと丁寧にコミュニケーションを取ることを基本にしているので、それが今の信用に繋がっていると思います。積み重ねてきた実績のおかげでちょっとした不安は払拭できる、というのが現状ですね。

玉城部長 親会社から独立した時からはじまって、りゅうぎんグループ、福山グループと看板が変わるたびに周囲からは心配されますね。

上間部長 福山グループになった時、当時の社長と新社長と私で各メーカーにご挨拶に行きました。今まで通りお取引は変わりません、ということを一社ずつ説明しましたよ。

玉城部長 結果オーライですよ。競合だった福山商事と同じグループになることで、取扱商品が重複することなく、お互いに取引先や商品を補完できるようになったので。変化する時には不安も混乱もあるけれど、結局は上手くいっているんじゃないかなと思います。

宇栄原部長 社内の変化はわりと常に訪れていましたね。りゅうぎんグループの頃は社長と常務が2~3年ごとに変っていましたから。そのたびに方針や社内体制が変わるので、定期的に新しい風が吹き新しい環境になる、という繰り返しでした。でも、そんな状況だからこそ、社員の結束力がどんどん強まっていったと思います。歴代の社長たちはタイプも様々でしたから。

玉城部長 それぞれの社長の個性が出ますからね。新しい体制を作ったかなと思ったら、次の社長は全然違う考えだったり。

平良部長 ほかの会社にはない忙しさですね。

宇栄原部長 でもそれって最終的に勉強になることばかりだったので、他社では経験できないような鍛えられ方だったと思います。

上間部長 そうですね。特に印象に残っているのは、りゅうぎんグループの比嘉幹弘社長。上層部が変わってもブレない会社でいられるよう、組織をしっかり形成し責任者を育て上げてくれました。それまで営業は個々で動く個人商店の集まりみたいなものだったけど、個人が一丸となり強い組織になれたので、本当に感謝しています。

玉城部長 比嘉社長が就任してから一気に組織体制が強くなったかなと思います。特にここにいる私たちは組織作りや役職とは何か、を一から勉強しましたよね。

上間部長 厳しかったですよね(笑)。責任と自覚、数字の読み方も叩き込まれましたよ。

宇栄原部長 ブルドーザーが来てガーッと整備していった感じですね(笑)。厳しかったけど非常に勉強になりました。朝早く出社したら社長につかまりコーヒーを飲みながら勉強会が始まる、とか。色んなタイミングで学びや試練を与えていただき、会社も自分もこの時期に大きく成長できたという実感があります。

平良部長 もともと社員同士仲の良い会社だったけど、より一層絆が強まった感じですね。

各部長が語るこれからのPAZLINE 座談会

玉城部長 そう、私が入社して一番に感じたのも、仲が良くなって。社内の人間関係や雰囲気良かったから、色んなことを乗り越えてこれたのかな。

上間部長 昔から結束力はいいですよ。休日にイベントもよくやっていましたね。リレーマラソンが一番大きなイベントかな。社員は全員、家族も一緒に参加して、名護からたすきリレーをしたんです。ゴールは会社。ゴール後は皆でBBQです。ボウリング大会や社員旅行もありましたね。

玉城部長 ほんと、仲がいい。その証拠に社内結婚が多いですよ！結婚後も皆さん一緒に働いているし。和気あいあいとした会社です。

平良部長 私も社内結婚です(笑)。10組以上いるんじゃないかな。仲の良い社風のまま、10年後20年後と



は見えていますからね。今までの実績と信頼で得られる仕事をさばきながら、常に新しいことに取り組んでいかなければ。福山グループという強みを生かして、そろそろ大きく展開する時期でもあるので、そこもまた楽しみです。それを踏まえて、社員一人ひとりが計画を立てて行動できるような環境と組織を作り、次世代の活躍に期待したいと思います。

玉城部長 パズラインという新しい社名になっても、先人たちが長い年数をかけて築いた信用を受け継ぎ、後世に繋いでいって欲しいです。そして、どんどん新しいことに挑戦してもらいたい。あと、会社には女性の取締役も必要ですので、女性役員もぜひ引き継いでいただきたいです。

平良部長 当社が扱う商品はとても地味ですが、生活していく上では欠かせない重要なライフラインの形成を支えています。社会や生活に貢献している重要な仕事だと認識して頑張ってもらいたいですね。

玉城部長 でも、次世代が希望を持つことが大事なので、私たちが目標を作るんじゃないで、自分たちの夢を自由に描いて、どんどん進化してもらうのが一番です！

上間部長 歴代の社長や役員、先輩方はたくさんいますが、昔と今とは違う会社になっているので、これまでの流れを生かしつつも10年後20年後には彼らなりのスタイルで自信を持って会社を築いてもらいたいですね。



次世代につなげたいですね。

宇栄原部長 そうですね。次世代が頑張れるように、バトンタッチしたいですね。今の業務は全て後輩に任せたいと思っています。先輩たちが築き上げた事業を若い世代に盤石化してもらいたい。そして私たちは別の新しい市場の開拓に取り組みたい。既存事業の盤石化と市場開拓の両輪で、当社が業界をリードできる状態にしたいですね。

上間部長 公共工事に関しては数年先までやるべきこと

新社名の由来とロゴマークの意味

命名者インタビュー

「PAZLINE」の命名者は、
総務部 業務課に在籍している向里菜月さん。
入社4年目で挑戦した新社名応募について
お話を伺いました。

新社名を社内で募集すると聞いて、すぐに応募したい！と思いました。社内公募の告知から締め切りまでの約1カ月間、毎日社名を考える日々でした。命名に挑戦することは即決でしたね。会社の名前を付けられるなんてこの先あるかないか、人生で一度きりの機会かもしれないですね！公募という形で全社員に機会を与えていただき、感謝しています。私の周りにも応募する人は多く、お互い意識したり話題になったりと、募集期間中は盛り上がりしていました。

新社名は一人で複数案出すことが可能でしたので、2案出しました。たくさん考えましたが「これだ！」と思う2案に絞って。もちろん両方自信作でしたが、自分の中の第一候補は別の案でしたので、「PAZLINE」に決まったと知ったとき「こっちか！」って(笑)。でも、どっちが選ばれても満足。社名に込めた意味や想いが認められて嬉しかったです。

どのような環境で考えましたか？

家で考えるときもありましたが、ほとんどは外に出て考えていました。お気に入りのカフェで周りをキョロキョロ見渡し、人や景色を観察なんかしたりして。目や耳から情報をインプットすると、いろいろなイメージやアイデアが頭に浮かんできます。その言葉や考えをひとまずメモに書き残し、そこからイメージを膨らませ、さらに言葉の意味を調べたり組み合わせたりして具体的にイメージを固めました。

方向性を決めて数案に絞り込んだタイミングで、家族に「これどう？」って意見を聞きました。母はもちろん、祖母や叔父、叔母たちにも意見をもらいました。家が近いので遊びに行きがてら親戚中を巻き込みましたね。みんな応援してくれて、アドバイスやヒントもたくさんもらいました。そんなことをギリギリまで続け、締め切り直前に厳選した2案を提出しました。



PAZLINE命名者
総務部 業務課 向里 菜月 (2017年入社)

社名を考えた時に意識したポイントを教えてください。

言葉に込める意味や想いだけでなく、音の響きや印象なども重視しました。今までとは全く異なる新しさがあること、覚えやすいこと、耳馴染が良いことなどを前提として、私が感じている社内の雰囲気「明るさ」も表現できる響きになるようにと考えました。

旧社名が漢字だったので、ひらがなやカタカナ、ローマ字表記で新しさを表現する、ということは先に決めました。そして、覚えやすく耳にすっと入ってくる音を調べると、「パピブペポ」の半濁音や「っ」の促音が耳に残りやすく、弾ける音で明るいイメージが出せることが分かったので、発音にも注目して単語を選びました。そのなかでも「PAZ」と「LINE」は最初から使いたいと強く思っていた単語です。

選ばれたと知ったとき、どう思いましたか？

応募してから決定するまでけっこう時間がかかったんです。その間ずっと「まだかな？まだかな？」ってソワソワしていました(笑)。役員会議で第一次審査、第二次審査があり、第三次審査は社内投票だったんです。投票の時に新社名案は30点ほどに絞り込まれていましたが、そこに私が出した2案どちらも入っていたんです！この時点で大興奮、大喜びです。「もしかしたらイケるかも！？」って。でも、どれもよく考えられたものだったので、ちょっと不安にもなりましたが…。

実は応募直前に「画数も重視されるらしい」と聞いたんです。大事な会社名ですから、運氣や縁起も大事ですよね。でも既に2案に決めていたし、これ以上いいと思える社名はもう考えられなかったの、あえて画数を調べずに提出しました。「画数が良くなかったらどうしよう」と、それだけがずっと気になっていました。

社内投票後、上位3点から最終的に役員会で決めたのですが、いつ決まるのか分からなかったの、またソ



新社名決定までの経緯

社内公募開始：2019年12月26日に公募開始
第一募集で集まった件数：66件
最終選考に残った社名件数：9件
最終決定：2020年10月20日取締役会にて承認
商号変更：2021年1月

ワソワする日々でした(笑)。最初に「PAZLINE」に決まったと聞いたのは、個人面談のとき。総務部の玉城取締役部長に教えていただきました。面談中で業務の話をしていたので、けっこう不意打ちで。「え？え？」とびっくりし、すぐに「キャーッ」と飛び上がりたくなったんですが、そこは面談中なので冷静に(笑)。会社から正式に発表があるまでは黙っていようと思い、面談後も興奮を抑えて平静を保ちながら席に戻ったのを覚えています。

名前の由来と自分の想いが、皆さんが考える新社名の理想像と一致できたのかなと思います。後から聞いたのですが「PAZLINE」の画数はローマ字、カタカナ共に良い数字だそうです。たまたまですが、運の強い名前です！

周囲の反応や社名変更後の影響はいかがでしたか？

正式発表と表彰式は朝礼で行われ、ご褒美に金一封をいただきました。発表後は、社内でもたくさんの方に声をかけていただきました。「よく考えたね」「おめでとう！」「いい名前だね」など。でも、すぐには「社名が変わる」ということが実感できなくて。名刺ができ看板ができ、徐々に準備が整っていくとジワジワきましたが、やはり一番実感したのは、社名変更を施行した日ですね。

その日から会社のみんなが電話口や窓口で「パズライン」と言ってくれるんです！私自身は社名を考えている段階で、言いやすいか、聞き取りやすいかを確認するために「はい、パズラインです」と何度も声に出していましたが、会社のみんなが当たり前「はい、パズラインです」と言っている様子にとっても感動し、嬉しさが込み上



げてきました。

また、ロゴ制作にも携われたのが予想外で感激でした。社名に込めた想いなどをデザイナーさんに伝え、それを表現してもらいました。パイプで繋がっている様子、お客様のニーズをパイプから覗いて見ている様子などパイプにいくつもの意味を持たせたいので、奥行きのあるデザインになりました。名前だけでは伝わらないイメージも、ひと目で見て伝わるようなロゴを作っていたいただき、命名者としてはとても気に入っています！

「PAZLINE」と向里さんの未来予想図を教えてください。

私は入社したときから、この会社でずっと働き続けることを目標にしています。今後ライフスタイルに変化があったとしても、定年まで働きたい。多くの女性先輩たちが、産休育休を経て仕事を続けていらっしゃるの、私も見習いたいです。そして、私自身が成長し続けることで、少しでも会社の成長に貢献できればと思います。「PAZLINE」という名前と一緒に、今の社員、これから入ってくる新しい社員の皆さんと一緒に、末永く楽しく働きたいと願います。

会社としてはお客様に寄り添い、身近に感じてもらえる会社になれたらいいと思います。水道やガスは生活に必要な不可欠で身近なものです、それを繋いでいるパイプはあまり意識されていません。もっと身近に感じてもらえるような存在になりたいです。そういう意味も含めて、耳馴染のよい、愛嬌のある名前にこだわりました。「PAZLINE」を未来に繋げられるように頑張りたいです！

新社名の由来とロゴマークへの思い

「パズライン」社名の由来



「PAZLINE株式会社」は、旧社名(株式会社琉信管
材商事)からイメージを一新することで企業価値の向
上や社員の士気向上等を目指し、施行されました。
新社名案は社内公募を行い、社員による投票推薦を行
うことで最終決定しました。

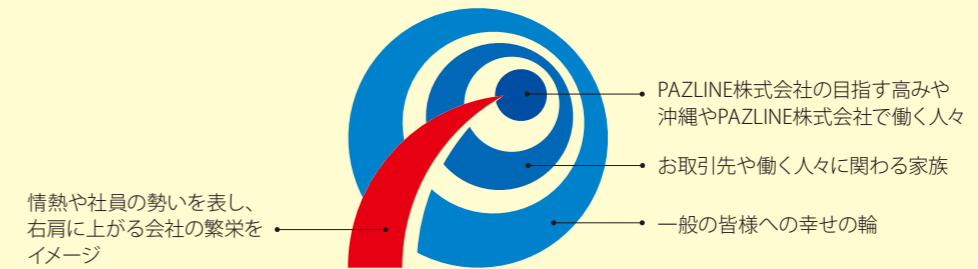
社名の由来としてはPAZLINEのPはパイプの頭文
字を引用し、A・Zは最初から終わりまで社会のライフ
ラインを守るという意志を示しています。

また、PAZとはスペイン語やポルトガル語では、
平和、という意味があり、それをパイプで繋げる
LINEを附しています。

「PAZLINE株式会社」には、人と社会を繋ぐこと
で、地域から世界に広がるグローバル(グローバル+
ローカル)な企業として成長していきたいという企業
の想いを掲げています。

新社名の由来とロゴマークへの思い

「パズライン」ロゴマークの由来



ロゴマークは3つの円から成る図に、赤色のライン
が入る図形となっております。

最初の円は、中心の円へ向かうことでPAZLINEの
目指す高みを表現し、地域に根付く意思の表れとして
沖縄やPAZLINE株式会社で働く人々を意味してお
ります。

二つ目の円は、そこから発するお取引先や働く人々
に関わる家族などを示し、角が無いことで円滑に丸く
収めるという意味が込められています。

最後の大きな円は、一般の皆様を表しており幸せの
輪が広がっていくという意味があります。

また、三つの円がパイプの行く先を進み行く印象を
与え、どこまでも続いていく想いを大切にしています。

一番のアクセントとなる赤い線は情熱や社員の勢
いを表し、右肩に上がる会社の繁栄をイメージし、制
作しております。

PAZLINE 株式会社 **本社がある**

浦添市勢理客 よもやま話



YOMOYAMA 01 BANASHI

「勢理客」を 「じっちゃん」と 読む由来

P AZLINE株式会社の本社のある浦添市勢理客の「じっちゃん」という読みは、「せりきゃく」の沖縄方言(母音の「e」→「i」、子音の「k」→「ch」)読みになる「せりきゃく」が、濁音化・音便化したものです。浦添市では、1996年11月25日の住居表示実施の際に正式な読み方を「じっちゃん」としました。この頃、バス車内のアナウンスも「せりきゃく」だったものから「じっちゃん」に変わりました。

国 選択無形文化財である勢理客の獅子舞は、旧暦の8月15日の十五夜に行われます。満月の夜、地域の厄払い・五穀豊穡・子孫繁栄を願って行われる伝統の獅子舞は、勇しく迫力があります。獅子舞を中心として、多くの踊り(ウドゥイ)、狂言(チョウギン)も演じられた勢理客の十五夜祭は、戦前から広く知られ、約400年もの昔から伝承されています。

沖縄の獅子舞は、古く中国大陸から直接伝来したもののようで、獅子頭は梯梧の材で彫刻し、胴部は棕梠縄に芭蕉や苧麻の繊維をませたもので縫いぐるみに仕立てられています。

沖縄本島では一般に毬遊び、棟喰い、シラミかき、寝返りなどの曲技、ものまねの演技を細かく演じる形が普及していますが、その中でも、多くの型を正確に保存しているのが勢理客の獅子で、その演技も極めて洗練されています。

「村神様である獅子」がしっかり守っている勢理客として、地域全体でこの獅子舞を保存継承していきたいとされています。

YOMOYAMA 02 BANASHI

技も極めて 洗練されている 勢理客の獅子舞



PAZLINE 株式会社

これまでとこれから

30th

これまでの株式会社琉信管材商事時代の振り返り

景気低迷時代を乗り越えた 1年目～19年目

1989年(平成元年)4月1日に、株式会社琉信商事として設立。株式会社琉信の商事部を譲り受け管工機材及び設備機材の卸小売業として営業展開。7/24宅建業、11/6貸金業の営業免許を取得し、経営多角化への体制づくりを行う。

その後、管工機材及び設備機材の拡販に積極的な営業活動を展開することにより、景気低迷時代ではあったが、公共工事用の商品拡販、公共工事資材、マンション等分譲住宅用資材の受注増加による売り上げ増を維持させてきた。

1993年(平成5年)には、資産償却で経常利益を増やし、その後も経営状況は厳しい局面を向かえながらも売上高、経常利益共に増加となっていく。

1997年(平成9年)、株式会社琉信管材商事へと商号を変更し、社業の中心を社名に込めた。また、1998年(平成10年)の創立10周年の節目に、営業基盤を強化し、営業推進した結果過去最高の業績をあげた。景気低迷で一般販売店用資材の売上は減少したが、公共工事用資材、分譲住宅用資材の売り上げが大幅増加した。

沖縄の時代は、2000年(平成12年)の沖縄サミットの開催などに沸き、県内景気の上向きを期待されながらも、厳しい状況が続いていく。経営状態もそれに比例して厳しさが続いた。



梁明期から支えた30年を語る

回想録



三和鋼管株式会社
取締役会長 岸野 勲 様

私の沖縄訪問のきっかけは、積水化学工業株式会社が日本で初めて硬質塩化ビニール管(エスロンパイプ)の製造に成功し、昭和27年に販売を始める事を知り弊社も代理店契約を結び、その後資本参加をいただき更に親密になった事で、沖縄の復帰後にエスロンパイプを水道管の本管及び給水管として販売するための市場調査の手伝いを依頼され、私が担当になったという事です。

水道管の市場調査をするため那覇市水道局に私は『積水化学工業株式会社顧問』の名刺でセキスイの営業担当者として訪問し、水道事業の現況を訊ね、同時にエスロンパイプのPRを行いました。初めての訪問にも関わらず親切に対応していただき私自身感銘を受けたことは今でも良く覚えています。

水道管の本管は鋳鉄管、屋内給水管は亜鉛メッキ鋼管が主に採用されていましたが沖縄の水は硬度の高い硬水のため腐食、管内の目詰まり等の対応に苦慮されていることを知り、解決の一策として塩ビ管を採用いただく為、塩ビ管の特性や施工方法などの説明を行い、非常に関心を示されたので幾度となく訪問しました。

そして復帰後まもなく、那覇市の海岸の造成地に、塩ビ管が水道本管として初めて採用されエスロンパイプを納品させていただきました。

その後弊社の販売先が沖縄から撤退する事になり、株式会社琉信管材商事様の前々身の株式会社琉信 商事部様が事業を承継され仕入先も継続となり取引が始まりました。

社員の皆様とは直ぐに打ち解けることができ、お一人ずつの思い出を語ると時間が幾らあっても足りないほどです。その皆様にエスロンパイプの販売窓口として営業活動やPRに同行させていただきました。訪問先は多岐にわたり、島内市町村の水道事業所・管工事組合・水道資材販売店様、時には離島の宮古島・石垣島・南大東島まで足を運びました。

当時の皆様方とのつながりがあり今に至ることを考えると当時の出来事は私の喜びでもあります。両者の関係を現役社員同士でさらに発展させることを切に願っております。

末尾になりますが、今後の貴社の益々のご発展を祈念しますとともに今後ともなお一層のお付き合いを賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

知識を身に付け
高品質な管材を豊富に扱うことで、
業界でのシェアを高め、
業績向上に貢献できたのではないかと
自負しております。



上間 長勇 さん
元 専務取締役

PAZLINE株式会社(旧:株式会社琉信管材商事)が設立して30年、記念すべき年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。また、社員の皆さんが一丸となって活躍されていることを嬉しく思います。

私の社会人としてのスタートは嘉手納基地内の貸付窓口でした。そこから琉球生命保険相互会社という保険会社に転職し、貸付調査を担当いたしました。そんななか、琉球信託という金融機関が設立されることとなり、当時の琉球生命保険相互会社の社長が初代社長に就任され「君も来ないか」とお誘いを受け、琉球信託に移籍いたしました。その後、琉球信託が不動産業の株式会社琉信に変わり、商事部を作ることになり、その準備委員に任命され、商事部の設置に携わったという次第です。商事部では建築資材を扱っていましたが、琉信が買い取った富士商事という会社の業務を引き継ぐこととなりました。富士商事は日本鋼管が(現:JFEスチール株式会社)沖縄支店として設立した子会社で、日本鋼管、日本鋼管継手(現:JFE継手株式会社)、積水化学工業の商品を扱っていらっしゃいましたので、扱う商品も取引先も全て引継ぎました。現在使用している倉庫も元は富士商事の建物でした。

富士商事を引き継いだ後は、商品について勉強する日々でした。会社としても管材を扱うのは初めてですから、メーカーの工場に出向いて製造方法ごとに異なる特徴の違いや素材の特徴などを一から学び、ガスや水道、電気、それぞれどの素材や製法の管材が適しているのかなど、たくさん知識を身に付けました。そして、他社メーカーとの違いを明確にし、サビに強いパイプとして営業をかけ、沖縄ガス株式会社や沖縄協同ガス株式会社、株式会社りゅうせきとの取引を成立させました。当時は安いけどサビやすい、という管材も多く出回っていたものですから、品質で勝負いたしました。知識を身に付け高品質な管材を種類豊富に扱うことで、業界でのシェアを高め、業績向上に貢献できたのではないかと自負しております。

成長を続けて30周年を迎えられたのは、社員の皆様のたゆまぬ努力があつてのことと存じます。これからも健康第一で、お客様に喜ばれる仕事を目指していただければ幸いです。30周年を契機に、新時代を力強く生き抜く企業としてさらなるご発展を遂げられることを祈念いたします。この度は、誠にありがとうございます。

黎明期を支えた元役員たちが振り返る

回想録

振り返ってみると
「良い仕事をしたな」
「思いきり働いたな」
という想いが強く、
大きな財産となっております。



安次嶺 勝さん

元 常務取締役

株式会社琉信管材商事改めPAZLINE株式会社が、設立30周年という記念すべき大きな節目を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

株式会社琉信の不動産部に在籍しておりましたところ、40歳を前にして営業課長を拝命し、商事部に転属となりました。それから約20年にわたり、商事部が独立し、社名や経営体制が変わるなか、株式会社琉信管材商事の常務取締役まで務めさせていただきました。不動産では工事部に所属しておりましたので、管材を発注する立場から受注する立場へと変わり、非常に苦労いたしました。しばらくすると当時のグループ会社、浩陽開発に出向となり再度発注側になりましたが、数年後にはこちらに戻り再び受注側に。建設管材の発注、受注の立場を行き来し、気持ちの切り替えなど苦しかった時期もありましたが、取引先のお客様たちのご縁で大きな案件が受注できたり新規開拓ができたりと、振り返ればとても良い経験をさせていただいたなと思います。当時は苦労しましたから、そう思えるのも最終的には、ですけどね。

営業の現場を離れ、常務取締役としての業務で思い出すのは、給与体系と退職金制度の改正でしょうか。2代目の仲村社長の時代に、各手当を基本給に組み込み退職金に反映させる、といった改革に着手しました。また、退職金は内部積立から外部積立にすることとなり、中小企業退職金共済制度への切り替えも担当しました。給与体系も退職金も、社員の生活に直接関わることで、会社にとっても社員にとってもより良い策を模索し、最終的に全員に納得してもらったという経緯です。

この取り組みが、常務取締役として果たした大きな仕事として印象に残っております。他にも大変なことは多々ありましたが、在籍中は何とか黒字経営を続け、ある程度の規模で維持できるまでにはなりましたので、当時の社員役員一同、貢献できているのではないのでしょうか。

現役で勤めているときは目の前の仕事に苦悩することも多々ありましたが、引退し振り返ってみると「良い仕事をしたな」「思いきり働いたな」という想いが強く、琉信管材商事での経験は私の大きな財産となっております。愛着のある大切な会社ですから、株はそのまま保有させていただいております。業績が安定していることから社員の皆様の頑張りが十分に伝わり、嬉しく思います。OBとして、株主として、貴社の益々の飛躍と発展を心よりご期待申し上げます。

PAZLINE株式会社(旧:株式会社琉信管材商事)設立30周年、誠におめでとうございます。30年の歴史のなかで、私自身この会社で皆さんと共に歩めたことをとても誇りに思います。

私が正社員として初めて採用された会社が、株式会社琉信の商事部でした。22歳で入社し59歳で退職するまでの37年間、私の社会人としての歴史は全てここに 있습니다。入社当初は経理として配属されましたが、経理の仕事が向いてなかったのでしょうか、1年後には営業部に異動になりました。営業と言っても当時は商品をトラックに積んで、お客様に注文の商品を運ぶのが営業としての仕事でした。ちょうど1975年の開催を目前に控えた沖縄国際海洋博覧会(海洋博)の建設がピークの頃で、営業しなくても売れていたんですね。しかし、沖縄自動車道もない時代。毎日名護の七曲りを通っての配達は、残業続きでへとへとでした。本格的な営業活動がはじまったのは海洋博が落ち着いてからです。営業しなくても売れる時代は終わり、沖縄建設新聞を見ながら客先を訪問する日々でした。他社に負けまいよう、自分なりの戦略を立てるのですが、「客先は最後に回る」が私のセオリーでした。仕事が終わる寸前の夕方に行くと、相手に遅くまで一生懸命やっているという印象付けることができ、たまには「一杯飲みに行きますか」となるのです。昔のやり方ですけどね、人間同士のコミュニケーションを重視していました。同業者と飲みに行くこともありました。同じ業界で働く仲間ですからね。時にはライバル、時には同志、お互い助け合うこともあります。仕事の飲み会というよりもプライベートで楽しんでいる雰囲気もありました。お客様や同業者との信頼関係を育みながらの営業活動を日々心掛けていました。

営業マンとしての喜びは、やはり大きな案件が受注できたときや売上目標を達成できたときです。毎月の目標も年間の目標も、ほぼ達成できたことが誇りです。当時は目標達成の報奨金がありまして、報奨金をいただく度に後輩たちを連れて飲み歩いたのも良い思い出です。その後輩たちが今でも現役で頑張っているの、時折り立ち寄らせていただいておりますが、後輩たちの活躍ぶりを伺うのが現在の楽しみです。経営や社名が変わっても、株式会社琉信管材商事を承継する会社として頑張っていたきたいと願います。社員の皆様にはどうぞ、定年まで存分に仕事を楽しんでいただければと思います。最後に、皆様のこれからの健勝とご多幸を祈念し、お祝いのメッセージとさせていただきます。

金城 俊晴さん

元 常務取締役

コミュニケーションを重視し
お客様や同業者との
信頼関係を育みながらの
営業活動を日々心掛けていました。



これまでの株式会社琉信管材商事時代の振り返り

前半、収益力の低下に見舞われながらも、株高や円安、原油安効果に下支えされた 20年目～29年目

2011年(平成23年)3月11日にあった東日本大震災に対し、官民による復旧、復興需要の顕在化に多少影響があったものの、その他公共工事関連は、予算削減などの影響受け企業間競争が高まり、収益力の低下を余儀なくされた。

また、海外経済の鈍化などによって外需絡みの下押し圧力が想定以上に増大し、景気動向は連続して低下し、景気後退かと思われるほど厳しい状況が続く。

だが、2015年(平成27年)に入ると、株高や円安、原油安効果に下支えされ、設備投資が持ち直し企業業績や雇用情勢が改善されるなど堅調に推移、建築業関連においては沖縄振興予算の確保に伴い公共投資が底堅く推移し、民間工事においても貸家や分譲建築、商業施設など大型案件の需要旺盛で全体的に好調に推移する。

2017年(平成29年)に入るとインバウンドの効果で観光、消費関連が好調に推移。建築関連では、国関連の那覇空港関連や基地関連などの公共工事が増加、公共工事は前年を上回り、大型施設の着工もあり概ね高水準で堅調に推移する。当社もそれに漏れず、市町村事業体に関連した公共事業は概ね好調に推移し、民間工事はホテル、住宅着工が前年を上回った。那覇空港関連、防衛局関連の取り組みを視野にいたした短期経営計画を策定する。

2019年(平成31年)に入っても、沖縄振興予算の削減はありつつも、民間工事、分譲住宅、大型宿泊施設などの着工等、高水準を維持。

当社は、増収増益、減収増益、減収増益を繰り返しながらも、堅調に成長している。

現在、配管資材、土木資材から住宅関連資材まで、2万点を超える商品の取り扱いがある。



入社直後にインタビュー

若手社員の本音に迫る一問一答！



営業部 金城 旭貞
(2021年5月入社)
現在は商品管理部にて研修中

総務部 業務課 岸本 玲亜
(2021年1月入社)

商品管理部 大城 一成
(2021年6月入社)

総務部 総務課 嘉数 七瀬
(2021年4月入社)

どのような経緯で入社したか教えてください。

金城さん 福井県の大学を卒業後、就職のために沖縄に戻りました。営業職に就きたいと父に相談したところ、父の友人であるPAZLINE営業部の平松さんに話を伺うことができ、仕事や会社に興味を持ったので応募しました。会社を訪問したときに、社内全体の雰囲気が良かったので「ここだったら、やっていけそうだな。ここで働いてみたいな」と思いました。営業部に採用いただきましたが、現在は商品を覚えるために商品管理部で研修中です。

嘉数さん 高校時代に学んだ簿記やパソコンの知識を活かしたいと思い、総務職希望で就活をしていました。PAZLINEに面接で訪問したときに、社員の皆さんが優しく話しかけてくれたのが印象的でした。役員面接もとても楽しかったんです！他の会社もいくつか受け、採用もいただきましたが、会社の雰囲気が他社に比べてダントツによく、働きやすい環境だなと思い入社を決めました。

岸本さん 高校卒業後1年間専門学校で勉強した後、就職しました。家が近いというご縁で最初に応募したところ、採用していただきました。私も面接時の玉城取締役部長の笑顔や笑い声に安心感と好感を持ちました。面接後に社内を見学させていただきましたが、やはり皆さんすごく優しく話

しかけてくれて、いくつか他の会社も受ける予定でしたが、1社目のPAZLINEがとても良く何の不安もなかったため、他の会社は検討せずに入社しました。

大城さん 福岡のダイビングショップで数年間働いていましたが、結婚を機に沖縄に戻りました。求人情報で、休日や有給休暇が充実している会社を探しました。前職は土日出勤で休みも少なかったため、結婚後は落ち着いて働きたいと考えて、複数の会社を受けましたが、みんなが言うように、会社の雰囲気が一番印象が良かったですね。明るく楽しく、長く働けそうだなと思い、決めました。

実際に入社し働いてみての印象はいかがですか？

大城さん 入社前のイメージのまま、楽しく和気あいあいと働かせていただいています。危険な現場では先輩が厳しく指導してくれるので、メリハリがあってすごくいい雰囲気です。2トン車で配達に出るので、運転がまだ難しいですね。社内では楽しく、配達や現場では緊張感を持って仕事をしています。あと、商品がやたら多いのが大変ですね。在庫にない商品の注文もあるので、常に初めて聞く商品ばかりです。

岸本さん 私もまだ商品を覚えきれていませんが、気兼ねなく誰にでも質問しやすい環境です。総務部だけ

でなく商品管理部の方々も面白くて優しい人ばかりで、すごく働きやすいです。最初は商品名を間違えることも多々ありましたが、最近はミスも減ってきました。困ってしまうのは、商品名と現場での呼び名が違うこと。また、人によっても呼び方が違うんです！1つの商品にいくつもの名称があるので、統一していただけると有難いです(笑)。

嘉数さん 私の部署も皆さん明るくて話しやすく、質問したら丁寧に教えてくださるのでとても働きやすいです。でも、私も商品名には悩まされています。初めの頃は電話で言われる商品名が全然分からず、先輩たちに教えていただきました。早く覚えられるように頑張ります！

金城さん 僕は営業部に所属ですが、今は大城さんと同じ商品管理部で研修中の身です。商品名についても同じく苦戦していますが、僕もいつかは先輩たちのように覚えられるのかもしれない、と希望を持って励んでいます(笑)。プライベートなことですが、大学までずっと野球部だったので、草野球にも誘っていただいています。休みの日には、会社の先輩やお客様たちと野球を楽しんでいます。

仕事で「失敗した」「やらかしてしまった」ことはありますか？

大城さん お客様からご注意を受けたことがあります。納品時のパイプの置き方が雑なものでもっと大切に扱ってほしいと。もちろんそんなつもりはなく、いつも通り気を付けて置いていましたが、雑に見えるんだと、気付かされました。自分が思っている以上に丁寧に扱わなければならないと、勉強になりました。

岸本さん 特に大きな失敗はないですが、配達前の伝票作りは毎日本当に大変です。10時と14時は泣きそうになるくらい忙しい時もあり、配達に出る皆さんを待たせてしまうことが心苦しいです。でも、大変なときはすぐに先輩方が助けてくださるので、まだ大きな失敗にはなっていません！

嘉数さん 伝票にお客様の会社名を間違えて記入してしまい、お客様や配達担当など多くの方にご迷惑をおかけしてしまったことがあります。あのときは本当に落ち込み、反省しました。それから、初めて聞く会社名や間違えやすい会社名は必ず2回聞き、確認しています。

金城さん 夏に倉庫で伝票の書き方を教えてもらっているとき、熱中症になり鼻血を出して倒れてしまいました(笑)。倉庫は本当に暑くて。仕事に夢中になると水分補給も忘れてしまうので、要注意です。皆さんにご心配をおかけしてしまいました。

仕事をしていて感じる楽しいことや嬉しいことを教えてください。

大城さん 金城さんが鼻血を出して倒れたとき近くにいたんですが、先輩たちの対応が本当に素早くて確で。チームワークや優しさを感じました。この環境で働けていることが嬉しいですね。夏の倉庫は過酷ですが、倒れてもみんなが助けてくれるので安心です(笑)。

岸本さん 商品を引き取りに来たお客様が私の名前を覚えていてくれたり、電話の声だけで「あ、岸本さん？」と言ってもらえるのが嬉しいです。私もお客様のお名前をお呼びすると「名前覚えてくれたんだね」と喜んでいただけます。お客様と上手くコミュニケーションが取れると仕事も楽しくなります。

嘉数さん 経理の仕事にも慣れてきましたが、まだまだ分からない言葉や未経験の業務がたくさんあります。毎日新しく学ぶことが多いのですが、身に付けた知識を実務で生かされると「勉強したことが役立つ」と実感でき、「もっと学びたい！」と前向きになります。

金城さん 先輩と現場に行く勉強にもなりますし、いろいろなお話が聞けるので楽しいです。今は商品管理部で研修中ですが、営業部の先輩もゴルフに誘ってくれたり、何かと気にかけてくれます。商品管理部と営業部、両方に先輩がいるのが嬉しいです。

10年後、どういう会社であってほしいですか？

金城さん 社内の雰囲気は10年後も変わってほしくないですね。倉庫は快適な環境に整っているといいですね。もう誰も鼻血を出さないように…。営業マンとしての希望は、離島や県外の仕事を増やし、いろんなところに出張に行けるようにしたいです！

嘉数さん 私も雰囲気は今と変わらず、明るくて楽しい会社のままでいてほしいです。そして、今よりもっとメーカーさんやお客様との取引が増え、信頼が増しているといいと思います。

岸本さん 旧社屋や倉庫も建て替わり、さらに新しい環境で快適になっているといいですね。コロナも収まって、社員同士で飲みに行ったり食事に行ったり、より仲が深まっていることを願います。

大城さん 街中の建物を見て「あそこにもパイプを卸したんだよ」と言いたいです。僕たちの仕事は見えないところにいっぱいある。それを知ってもらえるように頑張りたいです。

若手社員の皆さん、ありがとうございました。10年後にもぜひ40周年記念誌に、今とは違う立場で登場してください！

編集委員座談会

この記念誌制作に当たって思ったこと

30周年記念誌を制作するにあたって、各部署からの代表者で編成された「記念誌編集委員会」。通常業務を抱えながら重責を担うこととなった3人が、完成を目前に控えたタイミングで制作過程を振り返りました。



座談会メンバー

親富祖 千紗
総務部業務課
2001年入社

兼島 直也
商品管理部
2018年入社

喜屋武 一成
営業部
2019年入社

各部署から集まった3人の記念誌編集委員

- 喜屋武さん もうすぐ完成ですね。
- 親富祖さん でも、まだ終わりじゃないんですよ…。完成したら、お借りした写真の返却やご協力いただいた方々への記念誌発送など、もうひと仕事あります。
- 兼島さん でも、何とかやっとなら、ここまで来れたって感じですね。
- 親富祖さん 各部署から1名ずつ記念誌編集委員を募ると聞いたとき、勤続20年のキャリアを業務以外でも生かせるかなと思って「やります」と言ったのがはじまりです。昔の会社の様子を知っていたりOB・OGの方々とも多少は面識があるので、何かお役に立てることがあるはずって。
- 兼島さん 僕も自分から手を挙げました。他社の社史を見るのが好きだったので「どういう風にするんだろう」って、とても興味がありました。
- 喜屋武さん 私は会社の歴史に興味があって、「ぜひやってみよう」と。編集委員がこの3人に決まったと知ったとき、私も兼島さんも社歴が浅いので、親富祖さんに頼ってしまう部分は多いかなと思いましたが。
- 親富祖さん 確かに、本音をいうと最初は不安でした(笑)。でも走り出したら二人ともとても頼れる存在で、引っ張ってもらいました！

初めての記念誌発行にコロナ禍の影響…難航したスケジュール

- 喜屋武さん 社内に誰も経験者がいませんでしたからね。どうやって進めればいいのかも分からず手探り状態の時期が長かったですね。
- 親富祖さん そもそも編集委員が3人っていうのも少なく感じました。委員長という役割も、役員も委員会にいないので、決定権が私たちに、3人で決めたことを役員会で報告して承認を得るにも時間が掛かってしまいました。
- 兼島さん さらに新型コロナウイルス感染拡大で緊急事態宣言が発令され、OBインタビューや座談会が何カ月も延期になってしまいましたよね。
- 喜屋武さん 記念誌制作もコロナ禍も初めて。戸惑うことばかりでなかなか進まないし、通常業務の合間にやるしかないから、それぞれ時間を捻出するのも大変。僕は前半は割と時間が取れたけど、後半は工事や出張が入ってなかなか動けず…。
- 親富祖さん でも前半に喜屋武さんがかなり進めてくださったので、だいぶ助かりました。後半は私と兼島さんが引継ぎ形でお互いできるときに頑張るっ



て感じでしたね。

兼島さん 僕も業務の合間を縫って作業をしていましたが、部署内でも協力してもらって何とか時間を作れました。

喜屋武さん 何が大変だったって、資料探しですよ。時間が掛かりましたね。

親富祖さん 会社に歴史はあるけど資料がきちっと保管されていなくて。特に昔の写真が無くて。4、5年前から商品管理部の平良部長が社内イベントで写真を撮り保存してくださっていたので、これに助けられましたね。

喜屋武さん 会社の歴史は決算書から読み解きました。新聞記事に載ったりもしているはずなんですけど、切り抜きもない。資料がないのはもったいないと思いましたね。

親富祖さん 本当ですね。とりあえず会社として資料を整理して保管することを役員会に提案しないといけませんね。

会社の歴史に触れ合えた貴重な経験

兼島さん 歴代社長の当時の写真がないので、直接連絡してご本人から写真をいただいたんです。僕が担当したんですが、電話をかけるのはドキドキでした。でも、皆さん優しい方ばかりで、快く対応してくださりました。

喜屋武さん お話とかもしたんですか？

兼島さん はい、昔のことをお話してくださったり、世間

この記念誌制作に当たって思ったこと **編集委員座談会**

話をしたり。なかなか面白い経験でした。あと、皆さん記念誌制作を喜んでくださり、社名が変わったこともご存じだったのが嬉しかったですね。今でも気にかけてくださっていて有難いです。

喜屋武さん 私は決算報告書を1期目から読み込んで歴史を辿る作業が良い経験になりました。ものすごく大変でしたけど、やってみて分かったのが、創業以来の33期、総売上がほぼ一定なんです。もちろん差はあるんですけど、変動幅が小さくて安定している。すごいと思う一方、なんで右肩上がりにならないのかなって(笑)。でも、在庫数が減ってきているので利益は上がっているのか、業界でのポジションも維持できているのかなとか、いろんなことが分かってすごく勉強になりました。

親富祖さん 難しそうですが、面白かったですか？

喜屋武さん そうですね。時代背景も会社の事情も数字に表れているから面白い。今回は時間が足りなかったけど、機会があったらもっとゆっくり時間をかけて読み込んでみたいですね。

親富祖さん 私は各インタビューや座談会に立ち会えたことが良かったかな。記念誌には載せられなかったこぼれ話やオフレコの話なども全て聞きました(笑)。直接お話ししている温度感で本音や熱量が伝わってくるし。OB、役員、若手の方々の、会社や仕事に対する想いを知ることができて、いろんな人たちの想いが積み重なってこの会社の今があるんだなあって、思いました。

通常業務では得られない楽しさや学びも！

喜屋武さん 社外の人たちと関わりが持てたことも良かったかな。福山ホールディングスの福山社長を訪問して写真を撮らせてもらったときは、雑談ですけどためになるお話がたくさん聞けて。あと、記念誌制作を依頼した制作会社さんと一緒に仕事ができただけのこと。業界以外の人と仕事するのは刺激的で楽しかったです。

親富祖さん 私も！未経験の私たちにとっては本当に頼れる存在だったし、資料がないとか緊急事態宣言とかの問題にもアドバイスをくださって。社内を進めることも丁寧に教えていただき感謝ですね。それ以上に、今まで接したことがない業界の方々なのでコミュニケーションの取り方など勉強になることもたくさんありました。

兼島さん 僕もコミュニケーションの取り方や必要性を学びました。通常業務では決まった人と決まったやりとりだけになってしまいましたが記念誌の

件で社内でもたくさんの方と接する機会が増えました。ちょっとした声かけや会話でいろんなことがスムーズに進むので、普段から業務以外でもコミュニケーションは大事だなと思いました。

喜屋武さん 苦労したぶん、いろいろ学びました。報告、確認のレポートラインや議事録の重要性も実感しました。取引先や関連会社に祝辞やお写真を依頼する場合、依頼経路やタイミングを間違えてはいけない。役員全員の同意や意見をいただくには、どの場で議題にあげたらいいかとか、一番気をつかう部分でした。小さなことでも全員揃う場で確認して記録に残すことを徹底するようになりました。

**意外と良かったチームワーク**

親富祖さん もどかしいこともあったけど、その度にチームとして成長できた気がしますね。最初は不安もありましたが、実際に動き出したらそれぞれが自然にお互いをフォローして。私は前半なかなか動けなかったんですが、喜屋武さんの勢いに助けられました。

喜屋武さん 勢いよく進み過ぎて、セーブされることもありました(笑)。役員の承認を待っている時間ももったいなくて「とりあえず進めちゃおう！」と思ってしまった時期がありました…。

親富祖さん そうですね、喜屋武さん進みすぎです

よー！っていう時が何度か…。でも、行動派だから先頭切って私たちを引っ張ってくださって。それで軌道に乗れた感じです。しかもデータ作成もお上手で、すごい！と思いました。

喜屋武さん 私は営業職だから時間を調整しやすい面もあったから。二人は時間を作るのが大変だったんじゃないですか？

親富祖さん 兼島さんは配送業務だから部署内で調整してもらわないと時間が作れないんだけど、そんな状況でも柔軟に動いてくれて、上手にパパバってこなしてくれていましたね。

兼島さん 僕はお二人に頼るばかりで…。できることはすぐやろう、と頑張りました。

親富祖さん 後半は私も要領を掴めたかな。時間も人手も足りないので役員の皆さんへ相談しながらOG・OBの方々への連絡など協力していただきました。3人ではいろんな意味で限界がありましたからね。進め方って大事だなと勉強になりました。

次回の記念誌制作にも関わりたい！？

喜屋武さん そう！進め方。やっぱり経験者がいないのが辛かったですよね。もしまた記念誌を作るのであれば、経験者としてのいろいろアドバイスはしたいですね。段取りとか。あと、一番大事なのは役職についている方に編集委員長になってもらうこと。決定権のある責任者がいるとスムーズに進むと思います。

兼島さん 編集委員も、各部署から1人ではなく2名ずつがいいですね！

親富祖さん 次の記念誌も編集委員になりたいですか？

兼島さん 僕はぜひやりたいです。次は、喜屋武さんや親富祖さんのようなポジションで、後輩たちを引っ張っていく側になりたいなと思います。

喜屋武さん 私は編集委員はもういいかな。次は相談役くらいの立場で(笑)。次の方が困らないよう、効率よく進められるように、ノウハウはぜひ伝えたい。でも、記念誌制作は本当に面白い経験ができるので、多くの人が携われると良いと思います。

親富祖さん 私も今とは違う、アドバイザー的な立場に関わりたいた。私たちがつまづいてしまったこと、難しかったこと、時間がかかったことなど、同じ轍を踏ませないようにしてあげたいですね。あと、この30周年記念誌が完成して実際に見たときの反省点もあると思うので、それも生かしたい。社外の人を読んでも楽しめて、しっかり会社の歴史を伝えられるのが理想ですね。



この記念誌よりバージョンアップしたものを作っていただきたいです。

たくさんの人に経験してほしい記念誌制作！

兼島さん でも、今回思い切って編集委員に手を挙げて本当に良かったと思います。大変だったけど全てが良い経験でした。この3人で仕事ができただけのことも楽しかったです。

親富祖さん そうですね。私もあんなに大変で不安しかなかったのに、今は楽しかったなと思っています。周囲の協力や優しさにも触れられて、感謝しかないですね。

喜屋武さん 私もちろん良かったんですけど、ちょっと気になることもあって。この3人ではなく、他の3人が編集委員だったら、全く違った記念誌になっていたのかも…。正解はないですからね。この記念誌は我々が編集委員として仕上げたもの。他のメンバーが作る30周年記念誌もぜひ見てみたいですね。

編集委員の皆さん、本当にお疲れ様でした。どうか、この記念誌の完成で満足してくださいね！

顧客満足度No.1を目指して、日々精進。

営業部



営業部は、沖縄県内の生活に欠かせない様々なインフラ整備及び住宅設備に必要な商品を取り扱っており、適正な品質と適正な価格でお客様へご提供できますよう、顧客満足度No.1を目指して日々努力をしております。

また、当社の長年に渡って培ってきた知識と経験を基に、上水・下水・農水・ガス・住宅設備の幅広い分野に於いて、県内・県外のメーカー様と相互扶助を行い、質の高い営業を目指し取り組んでおります。

営業範囲は、沖縄本島から離島まで、少数精鋭で各エリアに適正な人員を配置し、さまざまなニーズに合わせて対応しております。

戦後復帰してから49年が経ち、県内のインフラ整備も更新時期に来ている状況、また、近年では断水をしなくて工事を行う、不断水特殊工事の需要も増え、当社に於いてもお客様の要望にお応えできますよう、メーカーへの数カ月の研修を受けて技術を習得し、更に専用工具も揃えて、少しずつ受注も増えております。

今後も県内本島・離島からのご要望に対応して行きます。

また、部員の平均勤続年数は約12年となっており、各営業担当は今後も質の高いレベルでお客様と接する



所存ですが、お客様から信頼される為には、常に相手の立場になって物事を考え、お客様への気配り、心遣い、感謝の気持ちを忘れずに、一所懸命、楽しく、考動する事が大事だと考えております。

今後も社会の変化やニーズに対応出来る様、弊社と関係のあるすべての方々とパイプを繋ぎ、未来への繁栄を繋げていける様、日々精進して行きたいと思っております。

安定供給できる高品質なサービスを目指す。

商品管理部



商品管理部の主な業務は、出荷・在庫管理・入荷・来店顧客対応となっており、自社配送車両でお客様へ商品を直接お届けする業務を担っております。

商品を出荷するという一見地味な仕事にみえますが、2万点を超えるの商品の中から、お客様から受注いただいた商品を迅速に、ミス無く出荷するのは大変な仕事です。しかし、確実にお客様へ商品をお届けするのが、私たち部署の大切な役目だと思っています。

在庫管理に於いては、需要のニーズに合わせて在庫量を調整し適切な量をストックする事も、とても大事な業務となります。

欠品を恐れ在庫過多にならないように、日々のお客様との会話の中で、一人ひとりがアンテナを張り、営業部との情報共有を図り、市場の動向を見計らい、適切な時期に必要な量を安定供給できるようなサービスにも取り組み、また即納体制にも力を入れています。

商品管理部は、社内で一番人数の多い部署となっており、縁の下の力持ち的なポジションではありますが、一人ひとりが一丸となり、今後も『安全第一』をモットーに日々業務に取り組んでまいります。



会社の心臓部。円滑な運営ができるサポート役を担う。

総務部 (総務課・業務課)



総務部の部内体制は、総務課と業務課の二課で構成されており、各課内の役割を明確にして日々業務に邁進しております。

総務課の業務は、経営陣を含めた会社内全ての部署と密接な繋がりを持ち、社員全員が経営陣の目指す目標へ向けることが使命だと考えております。従業員が働きやすい労働環境を維持する事を目的として社内諸規定を整備して、全社員が恒に公平に取り扱えることを重点に考え、法律の改正や会社を取り巻く環境の変化に対応しております。福利厚生についても、定期・不定期の会社行事・イベント業務を企画して、社員のモチベーションアップに繋げております。

また、経営補佐、管理業務として経営方針・経営計画を社内へ周知を図り、円滑な運営が出来るようサポートをしています。会社資産の管理や資金計画を徹底し、経営分析、資金繰りなど予算管理も行っています。

今後も総務・経理業務は会社経営に関わる重要な任務だということを忘れず、会社全体のレベルアップを目指して参ります。

業務課の業務内容は、商品の入荷処理、仕入・売上上の計上処理を行い、取引先へ請求書発行を行うことが日々の業務となっております。伝票入力作業は正確性と効率性



が求められており、特に入力ミスによりお客様へご迷惑をかけないよう注意が必要です。間違えないよう業務中は高い集中力、定められていることを黙々とこなしていく忍耐力、締め切りのある厳しさを求められる業務です。

また、商品マスターの整備や原価管理をおこなっており、当社の扱っている2万点を超える商品の新規・変更のデータ管理を行っており、間違えがあると会社へ損失を与えることとなる会社の心臓部となる重要な部署です。

今後も業務内容は、会社の屋台骨を支える重要かつ責任のある部署と自覚して、日々努力して参ります。

30th



PAZLINE 株式会社

資料

会社概要

会社の概要

商号	PAZLINE株式会社
所在地	〒901-2122 沖縄県浦添市勢理客四丁目15番12号 TEL (098)877-6364(代) FAX (098)878-3578
設立	平成元年4月(創業昭和47年2月)
資本金	2,000万円
営業目的	1. 水道用配管資材・下水道用配管資材・ガス用配管資材 油送用配管材・住宅設備機器・その他土木資材の販売
従業員	29名(男子23名/女子6名)
取引銀行	琉球銀行 本店 安謝支店

会社の沿革

昭和47年2月	株式会社琉信の商事部として、水道資材、住宅設備機器を主に販売業務を開始
昭和51年4月	日本鋼管株式会社、日本鋼管継手株式会社、日本鋳鉄管株式会社、積水化学工業株式会社 その他大手メーカーの沖縄地区代理店、特約店を取得、県内管工機材販売業界で上位の業績で営業展開
平成元年4月	株式会社琉信の商事部を分離し、株式会社琉信商事を設立
平成9年4月	株式会社琉信商事から株式会社琉信管材商事に社名変更
平成25年7月	福山商事株式会社の子会社として、福山グループの一員となる
令和3年1月	株式会社琉信管材商事からPAZLINE株式会社に社名変更
令和3年2月	新社屋落成により、事務所移転

役員氏名

代表取締役	福地 正行
常務取締役	西 正和
取締役	玉城 昌恵
取締役(非常勤)	福山 弘隆
監査役(非常勤)	城間 貞

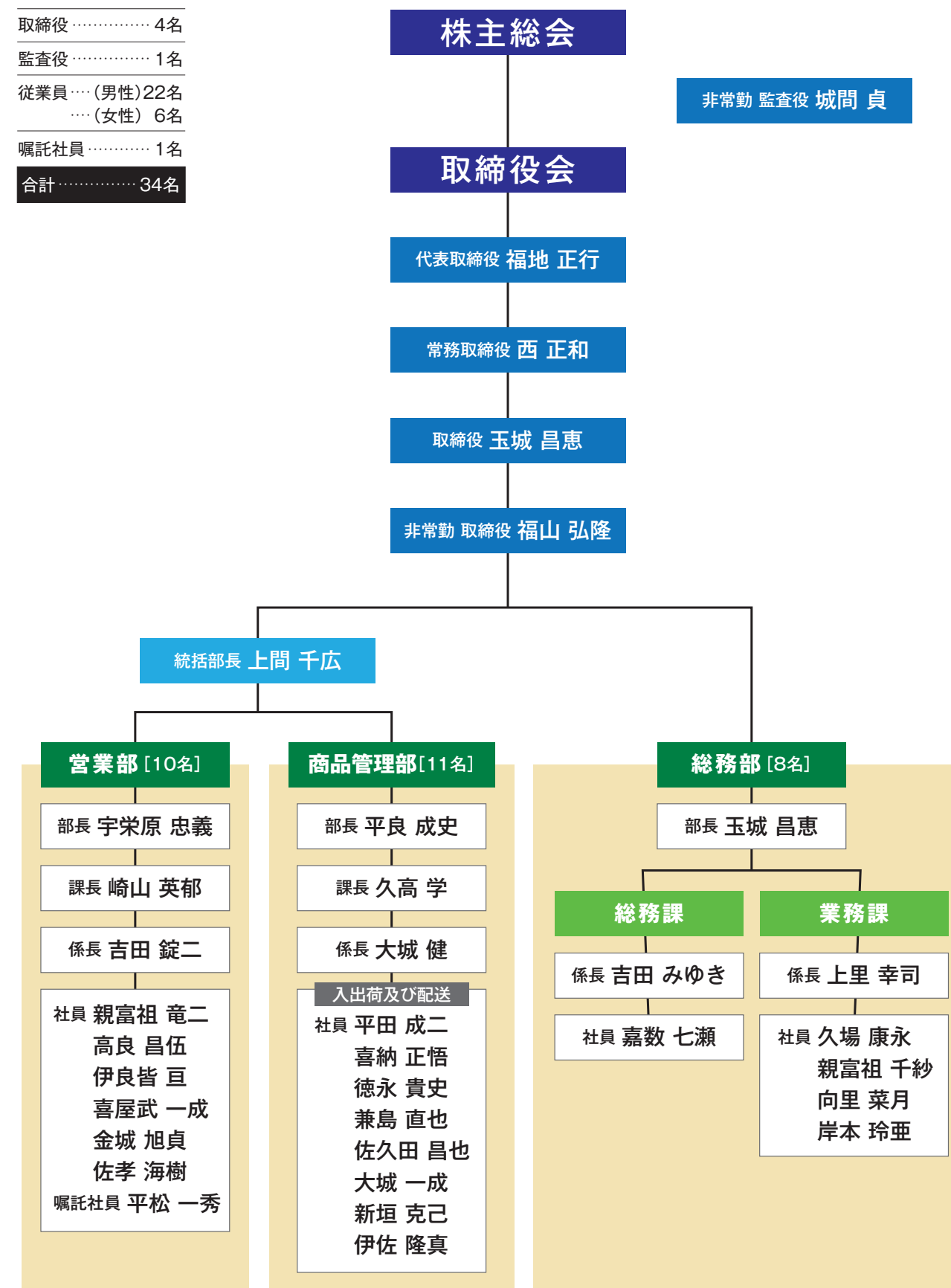
主要株主名

福山商事 株式会社

組織図

令和3年度12月1日現在

取締役……………4名
監査役……………1名
従業員……(男性)22名
…………(女性)6名
嘱託社員……………1名
合計……………34名



お取引先企業

※五十音順

株式会社アカギ	株式会社サンリツ	日本鑄鉄管株式会社
旭有機材株式会社	三和鋼管株式会社	日鑄商事株式会社
麻生商事株式会社	株式会社清水合金製作所	早川ゴム株式会社
アビトップ株式会社	株式会社昭和コーポレーション	日立金属株式会社
株式会社イーエス・ウォーターネット	JFEスチール株式会社	古林工業株式会社
株式会社沖坤	JFE継手株式会社	古林産業機具株式会社
沖水化成株式会社	JFE商事鋼管管材株式会社	前澤化成工業株式会社
沖繩鑄鉄工業株式会社	角田鉄工株式会社	前澤給装工業株式会社
株式会社オキチュウ	株式会社水研	前田バルブ工業株式会社
沖繩住設	積水化学工業株式会社	三井金属エンジニアリング株式会社
株式会社沖繩多久パイププレファブ加工センター	第一高周波工業株式会社	未来工業株式会社
株式会社沖繩ポルト	ダイキンHVACソリューション沖繩株式会社	モリ工業株式会社
兼工業株式会社	大成機工株式会社	株式会社森田鉄工所
株式会社川西水道機器	大豊機工株式会社	山岡鉄管株式会社
株式会社川本製作所	株式会社タブチ	大和コンクリート工業株式会社
株式会社キッツ	株式会社中部コーポレーション	大和商事株式会社
九州セキスイ商事インフラテック株式会社	中部美化企業株式会社	株式会社山里機工
九州鑄鉄管株式会社	東栄管機株式会社	ヤンマーアグリジャパン株式会社
株式会社クロダイト	株式会社TOZEN	株式会社横井製作所
コスモ工機株式会社	株式会社ハズ	リウコン株式会社
SANEI株式会社	南国殖産株式会社	株式会社湧川商会
サンエス護謨工業株式会社	日本ステップ工業株式会社	

取扱商品

ダクタイル鑄鉄管・異形管	EM不断水工法(エスゲート)	ドロップシャフト
鋼管・鋼管継手	不断水分岐工法(エスブンキバルブ)	ポンプ資材
被覆鋼管・被覆鋼管継手	可撓伸縮管・フレキシベンダー	溶接継手
配水用ポリエチレン管・継手	異種管継手・オールフィッツジョイント	フラップゲート
ガス用ポリエチレン管・継手	スッポンジョイント	各種支持金具
ガスフレキシブル管・継手	水道用仕切弁・一般用バルブ	下水道用継手
塩ビパイプ・継手	ガス用バルブ	水道用継手
耐火VPパイプ・継手	水位調整弁・緊急遮断弁	ガス用継手
強化プラスチック複合管(FRPM管)	消火栓・空気弁	農業用継手
レジンコンクリート推進管	塩ビマス・マンホール	スプリンクラー・定流量自動弁
レジンマンホール	マンホール鉄蓋	その他各種管工機材一式
下水道用リブ管(PRP)		

経営理念と方針

「県民の暮らしに奉仕する」をモットーに
総合卸売商社として信頼と実績を積み重ね
地域社会の発展に寄与する企業を目指しています

社訓

誠実

私達は常に真心を基として責任をもって行動し
自己の知識を広め内外に信用を築き
会社発展につとめる

根性

私達は常に社会的な使命を旨として
困難に対し強い意志と執念をもって
商社根性で会社発展につとめる

忍耐

私達は常に人の和を基として
耐え忍ぶ力と一致協力した精神を尊び
明るい職場環境を築き
会社発展につとめる

謝 辞

平素は格別のご懇情を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

このたび、弊社の設立30周年記念誌発刊にあたりましては、多くの皆様に祝福のお言葉を賜り、誠にありがたく心より感謝を申し上げます。また、本誌編纂に於いて短い期間でありながら、真心が込められた御寄稿を頂きました皆様、回想録の取材におきまして貴重なお時間を頂いた皆様には大変感謝をしており、誠にありがとうございます。

平成元年に会社を設立して30年の節目にあたりますが、初めて組織として事業開始した創業を遡ると昭和47年となり、その年は沖縄の施政権がアメリカ合衆国から日本国へ返還された激動の年でありました。創業時期の経営基盤を築いていく会社の苦闘期、事業の飛躍のきっかけを作り、安定成長した時期、回想録にありますように現場の方が語るものは、やはり迫力が違うと感動いたしました。昭和から平成へとその時々時代の荒波や社会情勢の動きのなか、長く大事にパートナーを継続して頂いたお取引先様や当時の経営者様、並びに社員皆様のそのご尽力に改めて敬意を表する次第でございます。

初めての記念誌発刊にあたり、未整理なままの状態の資料を事実が風化しない間に、まとめて過去を振り返り記録を残すことが出来ました。今回重要視したのは社員のための記念誌であり、創業以来の会社発展のための経営活動を総括して、社歴を認識して明日を担う社員たちへ伝承すべき貴重な財産を残せたと思います。

今後も、会社名の由来にある様に弊社と繋がる全ての皆様が、未来へ繁栄することを願い、社会貢献する企業を目指してまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが本誌編纂にあたり、忙しい中、記念誌作成に終始ご努力を頂いた編集委員の皆さん、素人ばかりの編集委員を温かくご指導頂きました株式会社近代美術様、株式会社うさぎでざいん様のお蔭を持ちまして、無事に発刊できたことを感謝申し上げます。

常務取締役 **西 正和**

編集あとがき

本誌は、PAZLINE株式会社の設立30周年記念誌として発刊致しました。編集にあたり営業部 喜屋武一成、総務部 親富祖千紗、商品管理部 兼島直也の計3名で編集委員会を結成して、記念誌プロジェクトが始動したワクワク感と同時に、大きなプレッシャーを感じた瞬間は今でも忘れられません。

制作がスタートして早々に過去の文書や記録がほとんど残っていないことが分かり、歴代社長・役員の洗い出し、過去の写真探しなど、ほぼ白紙の状態から始まりました。

写真探しをしている時には、「同じ場所」でも「設立当時の頃」と「現在」では働いている人はもちろん、周りの風景も違っており、改めて30年の歴史を感じました。

社員紹介のページでは、社員みんなにも協力してもらい、コメントと顔写真を一緒に掲載できました。社員にとっても自社の歴史を知るだけでなく、読んで楽しい資料になったと思います。

また、制作期間中は「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)」が世界規模で大流行しており、「蔓延防止等重点措置」や「緊急事態宣言の発令」などで座談会のために人が集まったり、取材のために訪問することに制限がありました。

そのため、当初の計画より遅れておりましたが、無事に発刊までこぎつけることができたことは、大変うれしく、この上ない喜びでもあります。

制作にあたり、一生懸命努力したつもりですが、資料収集の困難及び知識の浅さから、不手際も多々あると思いますがご容赦いただけると幸いです。また、ご意見等ご教示いただければ、次回の記念誌制作に活かしたいと思います。

最後になりますが、本記念誌の発刊にあたり、祝辞をお寄せくださいました皆様、資料収集・写真等の提供において協力いただきました社員の皆さん、寄稿・取材・ヒアリング調査にご協力いただいた皆様、そして今回の編集にあたり、全面的なご協力をいただきました株式会社近代美術様、株式会社うさぎでざいん様に心から厚く御礼を申し上げます。

編集委員 **兼島 直也**



PAZLINE 株式会社

30th
Anniversary
設立30周年記念誌

2022年3月発刊

発行 PAZLINE株式会社

編集 PAZLINE編集委員会
喜屋武一成・親富祖千紗・兼島直也

企画・制作 株式会社近代美術・株式会社うさぎでざいん

撮影 株式会社近代美術

印刷 株式会社近代美術

©PAZLINE株式会社
本誌掲載の記事、写真などの無断転載、使用、複製を禁じます。